

VR シミュレーション センシング

中央大学理工学部は、1949年に発足し、2019年に創立70周年を迎えました。創立当初からの伝統を引き継いだ研究力の高さは国内外に知れ渡っており、現在も110を超える研究室と170名からなる研究スタッフを有し、日夜活発な研究・教育活動を行っています。

今回は、3名の講師をお迎えし、仮想と現実を結びつける技術に関する講演をお願いします。日頃よりVRやシミュレーション、センシング技術に高い関心をお持ちの企業の皆様に、また中央大学との産学連携を希望する皆様のビジネスの一助となりますようご案内申し上げます。

◆ 講演

(1) 「仮想と現実の組み合わせによる学習・運動・行動の支援」

講師：牧野 光則 氏 中央大学 理工学部 情報工学科 教授

講演概要：VRやARという用語に代表される仮想と現実を結びつける技術は、1人または少数で学び、練習し、または、訓練する仕組みとして有用です。最近では、機器普及やCOVID-19以降の遠隔化に伴って活用範囲が広がりつつあります。本講演では講演者の研究室での構築事例を複数紹介します。

(2) 「センシング技術とスマートファクトリー」

講師：大草 孝介 氏 中央大学 理工学部 ビジネスデータサイエンス学科 准教授

講演概要：現実空間でのAIの利活用を考えたとき、AIに五感とそれを処理するための能力を与えるセンシング技術が必要不可欠となります。本講演ではセンシング技術とそれを用いたセンシングデータ解析の困難さと、現在最も現実世界でAI/DS技術が活用されている製造分野での最新事例について紹介します。

(3) 「VR・シミュレーション技術の防災・環境問題への適用」

講師：樫山 和男 氏 中央大学 理工学部 都市環境学科 教授

講演概要：都市をデジタルツイン技術を用いて仮想空間上にできるだけ正確に再現した上で、防災問題として津波シミュレーション、環境問題として騒音シミュレーションを実施した事例を紹介いたします。また、シミュレーション結果をVR技術を用いて可視化および可聴化を行う方法を紹介します。

◆ 交流会

参加者全員による立食形式の懇親・名刺交換会

日時：2024年3月4日（月） 13:30～17:30

会場：対面式（中央大学 後楽園キャンパス 3号館 14F）
および Webex によるオンライン配信

定員：対面式50名

参加費：無料

主催：中央大学 理工学研究所 /りそな中小企業振興財団